

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

宣教150周年記念礼拝に向けて

実行委員会委員長 主教 ペテロ 植田 仁太郎

すでにポスター等で諸教会にお知らせしたように、来る2009年は、アメリカ聖公会から派遣された宣教師、チャニング・M・ウィリアムズ師が、長崎に上陸してから、150年目の年に当たります。

今年、2008年は、日英修好150周年だそうで、イギリスからこの10月に、チャールズ皇太子ご夫妻が来日され、いくつかの行事が行われたと報道されていました。また来年は、横浜開港150周年でもあるそうです。このような記念の行事のニュースをうかがいますと、我が日本聖公会の歩みも、いわばこの国の近代化の歴史と共に始まったのだなァ、という感慨にとらわれます。

私事にわたって恐縮ですが、我が家の信仰の系譜も、この日本聖公会の宣教の歴史と軌を一にしているようです。もう何年も前に亡くなった父から聞いた話では、私の祖父は、青森県のどこかで床屋を営んでいたそうですが、明治維新という世の中の大変化を感じ、特に新しく開港された横浜では、大変なことが起こっていると伝え聞いて（つまり、文明開化の始まりが起こっているということに）大いに興奮して、家業を放り出して、横浜に出てきてしまったということです。そして、そこで聖公会の宣教師に出会い、クリスチャンになったということです。

私自身は、日本聖公会の歴史について特に学んだことはありませんが、教えていただいた限りでは、1859年という時は、未だキリシタン禁制の時代であって、宣教師が上陸したと言っても、ただちに自由に伝道活動を行うことができたというわけではなかったようです。ですから、ウィリアムズ師が上陸してから、最初の受洗者が与えられるまで何と七年を要しています。しかも最初の日本人への洗礼式は、当局の注意を招かないよう、まさに秘かに行われたそうです。

そのような社会、コト信仰の表明に関しては、非常な緊張と犠牲を強いられた環境の中で、「宣教師」として生きること自体が想像を絶する日常であったでしょう。

□会議・プログラム等予定

(前回報告以降追加)
および12月25日以降)

12月

2日(火) 正義と平和・ジェンダープロジェクト(京都)

2009年1月

7日(木) 主事会議

9日(金) 宣教150年記念礼拝実行委員会

11日(日) ~12日(月) 各教区常置委員長及び宣教担当者の集い(神田キリスト教会)

12日(月) プレ宣教協議会実行委員会

12日(月) ~13日(火) 人権担当者の集い(牛込聖公会聖バルナバ教会)

15日(木) 法憲法規委員会

18日(日) ~19日(月) 青年担当者会(牛込聖公会聖バルナバ教会)

19日(月) 青年員会

19日(月) ウィリアムズ主教記念基金委員会(立教大学)

22日(木) 神学教理委員会

27日(火) 礼拝委員会

28日(水) 広報主査会

2月

3日(火) 正義と平和・日韓協働プロジェクト

3日(火) 主事会議

6日(金) ~7日(土) #14 各教区礼拝音楽担当者会(京都)

9日(月) 渉外主査会

9日(月) ~11日(水) 在日韓国出身教役者会(長野)

17日(火) 常議員会

<関係諸団体会議等>

1月15日(木) 大韓聖公会ソウル教区主教[金 根祥主教] 着座式

19日(月) 学生青年運動エキュメニカル協議会実行委員会

28日(水) ~2月6日(金) 首座主教会議(エジプト アレキサンドリア)

2月5日(木) 聖公会生野センター理事会

※ 管区事務所冬期休業

12月30日(火) ~1月5日(月) の間休業いたします。よろしくお願いたします。

☆ ☆ ☆

このような最初期の、この国の教会とキリスト者の在り様を想像するにつけ、今の聖公会の姿に成長したことは、まさに奇跡に近いことだと思わざるを得ません。その意味で、宣教150周年を憶えることは、今日の宣教、伝道の困難さに立ち向かう上で大きな励みになって欲しいと願わざるを得ません。

この記念の年を迎えるに当たっては、多くの聖職、信徒の方々は、宣教100周年を祝ったときの大々的なイベントをイメージされるようです。東京の千駄ヶ谷の体育館を借り切って、数日間にわたって行われたようです。正直申しまして、今設置されている「実行委員会」に託されている任務は、あのような大規模なイベントを行うことを想定されているではありません。大きなイベントは、是非また200周年の折りに企画してください、という気持ちもあります。そうであっても、今、日本聖公会に連なっている私たちが、150周年という歴史的な時に会ったということは、やはりひとつの恵みであり、何かの形でその恵みに応えましょう、というのが今回の記念礼拝を催す意義だと思います。

この礼拝は必然的に三つの要素から成ると思います。これまでの歩みを支えてくれた、神さまと信仰の先輩たち(特に多くの外国からの宣教師たち)への深い「感謝」が第一です。そして第二には、今、私たちがイエス・キリストの身体につながれていることを、共に「喜び祝う」ことです。そして、第三には、これからの信仰の史を、

今在る私たちこそ担ってゆかなければならないという、「新たな決意」です。

この三つの大きな要素に加えて、聖餐式ですから、当然懺悔と代祷が含まれます。この懺悔には、これまで150年の歩みの中で、足らなかったこと、間違ったこと、すべきであったことを反省を込めて、共に神さまの許しを乞うことになるでしょう。そして代祷では、私たちと私たちの教会が、自分のために存在するのではなく、今後、ますます他のために生きようとする、その姿勢を表明することになるでしょう。

礼拝をどのように行うか、またこの記念の年全国津々浦々どのように憶えていただくか——まだまだ委員会でアイデアを出し合っている段階です。

極く最近の情報では、この機会にカンタベリー大主教も、ご臨席くださることが確実にになりました。また全国のみな様の要望にお応えして当初の会場を変更して、より多くの方々を収容できる、カトリック教会の聖マリア・カテドラルを拝借することになりました。

どうか、今実行委員会を中心に進めております記念礼拝が、全聖公会の聖職・信徒の心を結び合う機会となりますよう、お祈りください。



ボクの部屋なら空いてるよ

クリスマスの喜びをご一緒に味わいたいと思います。今、私たちは、主イエスの誕生(降誕)物語を聖書で読むことができます。しかし、その昔、聖書を読むことができる人はごく限られた人でした。しかし16世紀の宗教改革の時を通し

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤 牧人

て、どの国の人たちも自分の国の言葉で聖書が読めるようになりました。それ以前には、聖書が読めない人たちのために、聖書の福音を目に見える形にして伝えるステンドグラスや壁画がありました。また、アシジのフランシスが考案したと言

われる降誕の様子を知らせるナティビティー(クリブ)セットもあります。また、ページェント(主の降誕劇)は良くご存じでしょう。これも長い間世界中で、クリスマスに演じられてきました。大きく、小さく、静かに、にぎやかに。いろいろな人たちがいろいろな形で演じられてきましたし、今も演じられています。

大天使ガブリエルはマリアに告げます。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられる。あなたは神から恵みをいただいた。あなたは身ごもって男の子を産む。その子をイエスと名づけなさい。」と。

身ごもって、もうすぐ生まれるという頃、マリアは人口調査のためにヨセフと共に長い旅をしなければなりません。そして二人はようやくベツレヘムに着きましたが、どこの宿屋もいっぱいでした。何軒も何軒も訪ねては断り続けられました。

ある日曜学校での出来事です。ページェントでのこの場面に来たときのすてきな話を聞きました。宿屋の主人の役を演じた子どもが、「うちの宿屋は満員です。」と言って戸を閉めました。台本どおりに。しかし、その子は再び扉を空けて、「ボクの部屋なら空いてるよ」と言ったのです。

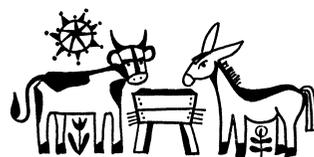
子どものすごいところ、それは、全身全霊入り込んで、そのことを味わうことができるというところにあるのではないのでしょうか。楽しいこと、幸せなこと、また悲しいこと辛いことへの感情移入のすばらしさを持っている。聖書の物語にはない、降誕劇の台本にもない。しかし、この子は、ヨセフとマリアの状況に、つい手を差し出したのでしょう。

11月にイギリスでUSPGの国際会議があり参加してきました。ヨルダン、インド、パキスタン、モリシャス、ザンビア、ガーナ、マレーシア、スリランカ、バングラデッシュ、フィリピン、ブラジル、

アンティクア、タンザニア、韓国から主教や担当者が集まり、5日間にわたる協議をしました。詳しいことは別の機会に報告されますが、この中で各管区の状況が報告されました。前もって各管区の現状、重要課題、USPGへの要望などを発表するために準備をとの宿題が与えられており、しっかりとその準備をして参加しました。各管区の報告を聞いていると、アフリカの方々は異口同音に一番の課題として、飢餓・貧困・HIV/エイズを挙げられていました。そのことは頭ではわかっているつもりでしたが、肉声で聞く迫力は考えさせられました。日本から持っていった要望などは、そのことを思うと言えなくなり、日本聖公会がこれから大切にしようとしている課題だけを報告してきました。

援助の議論の中で、「受けるよりは与えるほうが幸いである」とのイエスの言葉を引用し、この言葉を本当に理解することができるのは、与えられた喜びを知ったときではないかと思います。そして、その喜びを知ったなら、与えることの側になっていこうとするのではないかと発言してきました。USPGは世界の聖公会の働きに援助しようとしています。片やそこからの援助を受け、働きをしていこうとしている管区があります。その関係がより意味ある関係になっていくことが求められているのだと理解しました。一方通行ではなく相互通行の関係になるなら資金援助が意味あるものになるのでしょうか。

「ボクの部屋なら空いてるよ」とその困難を知り、思わず答えた子どものこの心を、わたしたちの心とすることの大切さを思います。「クリスマス」の喜びとともに。



□常議員会

第57(定期) 総会期第3回 11月27日(木)
〔主な報告事項〕

1. 日本聖公会宣教150周年礼拝にカンタベリ-大主教の来日が決定
2. 宣教150周年にあたり、主教会メッセージを出すことが10月21～23日開催の主教会で協議された。
3. 首座主教会議が2009年1月31日～2月6日、エジプトのアレキサンドリアで開催される。ランベス会議以降、ACC-14を控えて重要な会議となる。

〔決議事項〕

1. 2008年度管区一般会計収支予算承認の件(責任役員会決議) 一承認
2. 2009年度管区一般会計補正予算案見送りの件(責任役員会決議) 一承認
3. 正義と平和委員会委員交代の件
〔新〕前田良彦司祭(東京) 〔旧〕越山健蔵司祭(東北)
4. 首座主教海外出張承認・追認の件
追認—アジア宗教者平和会議(フィリピン、2008年10月16日～20日)
承認—首座主教会議(エジプト、2009年1月30日～2月6日)
5. ソウル教区主教着座式(2009年1月15日)出席者の件
2009年1月15日、首座主教または首座主教代理が出席する。
6. 総主事海外主張追認・承認の件
追認—USPG国際会議(2008年11月15日～23日、イギリス ロンドン)
承認—宣教協働者招聘委員会打合せ(2009年1月14日～17日、韓国ソウル)
7. 2009年度大斎克己献金国内伝道強化プロジェクト選定の件
主事会議の推薦を受け、中部教区提出「可児・美濃加茂ミッション」に決定
8. 臨時支出の件
 - (1) 管区審判廷開廷費用
 - (2) 世界聖公会エキュメニカル常置委員会

歓迎費用支出の件

次回からの常議員会
2009年2月17日(火)、4月23日(木)

□主事会議

第57(定期) 総会期第5回 12月8日(月)
〔主な協議事項〕

1. 在日韓国出身教役者会(2009年2月9日～11日、長野)への管区事務所からの参加に関して
 2. 大斎克己献金「国内伝道強化のため」に関して
 - (1) 次の2件の計画の提出があり、2009年の応援先を中部教区提出「可児・美濃加茂ミッション」に決定し、常議員会に提案することとした。
 - ①北関東教区提出「バルナバミッションとリー女史記念事業推進」
 - ②中部教区提出「可児・美濃加茂ミッション」
 - (2) 選定基準を見直していくため、意見を交わした。
 3. 日本聖公会以外への派遣委員の報告の具体化に関して
派遣される委員と送り出す日本聖公会の関係を密接に保つための方途について検討
 4. 統計表の改正に関して
検討グループを設けることとした。
- 次回・次々回主事会議
2009年1月7日(水)、2月3日(火)

□各教区

沖繩

・聖職按手式 12月27日(土)10時半 三原聖ペテロ聖パウロ教会 執事按手 志願者：聖職候補生イサク岩佐直人

京都

・聖職按手式 2009年1月17日(土)13時 高田基督教会 執事按手 志願者：聖職候補生マタイ出口 創

📖 出版物案内

・『日本聖公会法憲法規』2008年第57(定期)総会改正 11月15日発行 価630円(税込)

《人 事》

横浜		
司祭 マッテヤ大澤克次	2008年11月24日付	鴨川聖フランシス教会牧師および南三原聖ルカ教会管理牧師の任を解く。
	2008年11月25日付	主教座聖堂付を命ずる。
主教 ローレンス三鍋 裕	2008年11月25日付	鴨川聖フランシス教会管理牧師および南三原聖ルカ教会管理牧師に任命する。
司祭 オーガスチン松村 誠	2008年11月30日付	願いによって退職を許可する。
聖職候補生 ペテロ松田 浩	2008年12月6日	執事に按手される。
執事 ペテロ松田 浩	2008年12月6日付	柏聖アンデレ教会牧師補に任命する。
聖職候補生 バルナバ吉川智之	2008年12月6日	執事に按手される。
執事 バルナバ吉川智之	2008年12月6日付	厚木聖ヨハネ教会牧師補に任命する。
司祭 イグナチオ入江 修	2009年1月1日付	鎌倉聖ミカエル教会管理牧師に任命する。
執事 バルナバ吉川智之	2008年12月31日付	厚木聖ヨハネ教会牧師補の任を解く。
	2009年1月1日付	鎌倉聖ミカエル教会牧師補に任命する。
司祭 バルナバ田澤利之	2008年12月31日付	鎌倉聖ミカエル教会牧師の任を解く。
	2009年1月1日付	平塚聖マリヤ教会牧師及び大磯聖ステパノ礼拝堂管理牧師に任命する。
司祭 ヨハネ鎌田雄輝	2008年12月31日付	沼津聖ヨハネ教会牧師及び四恩幼稚園チャプレンの任を解く。
	2009年1月1日付	南三原聖ルカ教会牧師及び鴨川聖フランシス教会管理牧師に任命する。
司祭 ルカ武藤謙一	2008年12月31日付	清里聖アンデレ教会牧師及び長坂聖マリヤ教会管理牧師の任を解く。
	2009年1月1日付	沼津聖ヨハネ教会牧師に任命する。
司祭 ダビデ島田征吾	2008年12月31日付	平塚聖マリヤ教会牧師及び大磯聖ステパノ礼拝堂管理牧師の任を解く。
	2009年1月1日付	清里聖アンデレ教会牧師及び長坂聖マリヤ教会管理牧師に任命する。
主教 ローレンス三鍋 裕	2008年12月31日付	鴨川聖フランシス教会管理牧師及び南三原聖ルカ教会管理牧師の任を解く。



女性の司祭按手10周年感謝礼拝報告

司祭 グレース 神崎 和子

女性の司祭按手10周年感謝のプログラムが、2008年12月1日(月) 15時から翌日2日(火) 15時まで、名古屋市にある南山学園研修センターと聖マタイ教会でもたれました。

この感謝のプログラムは、1998年12月12日、中部教区に於いて渋川良子執事が司祭に按手されてから10年を経て、今、教会のミニストリーに多くの女性たちが参与している事を覚えても

たれました。この10年の年月の中で、女性たちは多くの喜びや痛みの両面を経験しました。そしてこれらの経験を通して、神が日本聖公会の礼拝・宣教・奉仕を、より豊かに導いてくださっていると信じています。そしてこれからも様々な課題を意識しながら、さらに豊かなパートナーシップに向かって歩んで行きたいと願っています。

女性の教役者たちは、このような思いを共有しながら、退職・現職者18名と大韓聖公会からの2名のゲスト、合わせて20名が名古屋に集まりました。

まずプログラムの第1日目、12月1日は、南山学園研修センターで、開会の祈りに続き、黙想会を行い、夜は分かち合いの時を持ちました。

黙想指導は、小貫ツマ北海道教区退職司祭です。小貫ツマ司祭は、歩まれた道を通して神様がどのような働きかけをされたのかを話されました。司祭であった夫の死後、途方に暮れる中、日曜学校の子どもたちから「先生が牧師になったらいいのに」と言う一言に力づけられ、教役者としての一歩を踏み出すことができたということです。参加者は、少し前を歩まれる経験豊かな司祭のお話に力づけられ、各々の場に遣わされることの恵みと豊かさを確認し、感謝する機会となりました。

夕食後の分かち合いでは、遣わされている現場での状況が話し合われました。北から南まで、宣教現場での体験を分かち合うことにより、深い共感が与えられ、神と人々に仕えることの喜びを実感することが出来ました。そして未来に向かって希望を見出すことが出来ました。

翌2日目は、北海道から沖縄まで全教区から約100人が出席、聖マタイ教会で感謝礼拝と交流会が持たれました。聖マタイ教会は、日本で初めて女性の司祭、洪川良子司祭の按手式が行われた教会です。

あの10年前、新しい風を感じながら、希望に満ちた按手式が行われた教会で、約20人の女性司祭が礼拝に参加しました。それぞれの働きの現場から集められ、感謝の礼拝を献げることができた恵みを強く思いました。ここに至るまで

に、多くの苦難の中にありながら、信仰のともし火を絶やさず、主と共に歩まれた先人の教役者の方々の事を忘れてはならないと思います。そしてまた次の10年に向かって、主と共に希望をもって歩み出したいと思います。

感謝礼拝では、岡村トシ子北海道教区退職司祭の説教に、温かさと力を全身で感じました。また共に喜び感謝し合う平和の挨拶に力づけられ、聖餐を通して主の命と力をいただき、新に送り出される力をいただきました。

礼拝後、ホールで交流のひとつが持たれました。教役者一人びとりの紹介、メッセージの紹介に引き続き、日本聖公会の女性たちの働きの歴史が、特に神学校を中心にどのような働きを担ってきたのかが、映像を通して紹介されました。

これからまた新しい10年に向かって新たな歩みが始まります。感謝礼拝のテーマ「私たちの教会がさらに豊かなパートナーシップへの道のりを共に歩んでいくために」という思いをさらに強めながら、いつの日か「女性の司祭」が少数者ではない日が来る事を願っています。

最後に日本聖公会女性の司祭按手10周年感謝礼拝の中で祈られた特祷を祈ります。

特祷

世界を造られた神よ、あなたはみ子によってわたしたちを全公会の交わりの中にお召しください。今、日本聖公会における女性の司祭按手10年の時にあたり、これまでのすべての女性たちの働きを覚えて感謝します。どうか主の民のために献げる祈りに耳を傾け、わたしたち一人ひとりが召された奉仕の業を通して、主の愛の器とならせてください。また、今も各地でそれぞれの務めを担う一人ひとりに必要な恵みの賜物を与え、わたしたちの教会がさらに豊かなパートナーシップへの道のりを共に歩んでいくことができますように。救い主イエス・キリストによってお願いいたします。 アーメン

Archbishop of Canterbury's Christmas Message to the Anglican Communion

カンタベリー大主教からの クリスマス・メッセージ



人間は、自分の想像力を生かすことで神を様々な形で考えてきました。古代ギリシャや古代エジプトで神々が少年として描かれる一つ、二つの事例がありますが、これを除けば、幼子の形を取った神という概念を世の中にもたらしたのは、教会です。弱くて頼らざるを得なく、何の力も支配力もない姿を取った神という考えは、教会独自のものです。よく考えてみると、やはり衝撃的な考えです。挑戦するような考えでもあると思います。

つまり神は、人間の生涯全体を通して私たちにご自分をあらわすことを願われたということです。これによって、受胎から死に至るまでの人間存在のあらゆる段階が、原則として神について語り得るものだというを示してくださったのです。イエス・キリストとそのユニークなご生涯から示されることは、すべての人の生涯を別の角度から見るということです。神が語りかけようとされることを伝えることができる側面は、私たちにもあるわけです。神の似姿は、イエスによってのみ完全にあらわされるものの、私たち一人一人のうちにもある、ということだと思えます。

それ故にクリスチャンとして、あらゆる条件にある人間、生まれてからこの世を去るまでの各段階にある人間に対して示すべき敬意はここから生じます。まだ生まれていない子どもが人類の一員ではないかのように見なしてはいけません。障がいや貧困に悩む人に関しても、他の人と同じように責任を持たなければなりません。最期を迎えようとする人間の場合でも、たとえ殆ど自由や知能のしるしが見られなくても、愛を込めてその人生を理解しようとしています。

子どもたちに対して持たなければならない関心もここから来ます。世界を見回しますと、私たちが普段感じる怒りや抗議よりも遥かに大きな怒りを感じ、遥かに大きな抗議を示すべきだと思わせるような事柄はたくさんあります。イギリスでは、今年子どもについていくつかの論議が公に行われました。この国の多くの子どもたちが感じる情緒的不安定、離婚や家庭崩壊による悪影響、子どもに不均衡な影響を及ぼす貧困や借金問題など、最近の研究が明らかにしてきた様々な問題に取り組んできました。新年に、聖公会と長年の交わりがあるチルドレンズ・ソサエティーが行った「いい子ども時代とは？」という国民意識調査の結果を期待しています。

他の地域においては、さらにひどい場面が見られます。例えば未だにアフリカ各地やスリランカに配置されている子どもの兵隊。HIV/AIDSによって一世代がまるごと滅ぼされ、児童と老人しか残されていないところに見られる子どもへの重大な負担。コンゴ民主共和国や中東などの紛争地における子どもたちの命運。難民の子どもたちや亡命希望の子どもたちが豊かな国で遭わされる無神経な扱い方などなど。

「今幼子なれど、やがてみくらにつきたもう」というクリスマス聖歌があります。もしこのベツレヘムの子どもは、生きていた人と死んだ人を審くために栄光のうちに再び来られる方と同じ方だということの本真ならば、世界の子どもたちのうちにある、この方の似姿が虐げられ、傷つけられるままにして

おいた私たちは、どうしてそのみ前に立ちえるでしょうか。

今週、イギリスの国民はある小さな子どもの殺害という衝撃的な事件に動揺しています。また私は最近、アウシュヴィッツにあるナチスの殺害現場へと巡礼の旅をする何人かの学生たちと教会の指導者たちに同行しました。そこで忘れられないほど恐ろしい情景の中で、ユダヤ人の子どもたちの大量殺害の場面がありました。彼らの死体から剥ぎ取った玩具や洋服がまだ陳列されていました。

クリスマスは子どもたちについて、そして私たちの各社会が子どもたちをどのように扱っているかについて、見つめ直すひとつの機会にもなると思います。生まれたばかりの幼子の無力な姿の中に永遠で全能の神を見るクリスチャンは、子どもたちが忌み嫌われたり、搾取されたり、恐れられたりする世の中に向かって突っ込んだ問いをする理由は十分あります。

とくに世界経済危機のときに、最も小さくて弱い者が最も大きな負担を負わせられるだろうと、誰もが想像できます。ベツレヘムの聖なる幼子は、私たちが全力を尽くしてこういう流れに立ち向かうことを求めておられます。彼は豊かであったのに、私たちのために貧しくなれ、無力な人々と共に無力になりました。その隣れみと豊かな恵みによって、私たち全員がその栄光にあずかるためだったのです。

あらゆる祝福と喜びに満ちたご降誕、新年への祈りを込めて

カンタベリー大主教 ローワン・ウィリアムズ

(日本語訳・司祭ケビン・シーバー)



Merry Christmas and a Happy New Year !!